学生支援活動追跡隊！

輝く学生生活のために Vol.2

今回のテーマ

キャンパスライフを活性化する“夢大賞”

長崎大学副学長（学生担当）
管原 正志 教授
Sugawara Masashi

学生の夢をかなえ、大学の活性化をめざす「夢大賞」

長崎大学では、キャンパスライフでの学生の夢を募集し、その実現を大学が支援する「夢大賞」という取り組みを平成11年度から実施しています。

「夢大賞」は、学生たちの声をきっかけに生まれたものです。当初、キャンパスライフを活性化させるための意見を学生に求めたところ、さまざまな要望や夢があることがわかりました。それらの実現が学生の自主性、企画力、創造性を養い、同時に大学の活性化にもつながると考え、「夢大賞」を通しての支援がはじまったのです。

長崎大学オリジナルの「夢大賞」に他大学も注目！

このような、学生の声を大学がくみあげて実際に活かす取り組みは、それまで意外に見過ごされており、どの大学にとってもあまり例のないことのようです。現在、「夢大賞」は、学生が大学環境の改善に参画できる新しいシステムとして、他大学からも注目されています。

夢の実現をめざして、大学が大きくバックアップ！

「夢」の企画・提案は、長崎大学および同大学大学院に在学する学生またはグループが対象になります。募集期間は、毎年11月初旬～12月中旬。翌年2月頃までに審査・選考・発表が行われ、次の審査基準によって、昨年は夢大賞（1件・賞金20万円）、準夢大賞（5件・賞金各3万円）が選ばれています。

◎審査基準

1、キャンパスライフの活性化又は充実に資する夢であるか。
2、学生の取り組みが具体的に表現され、実施のための組織が明確にされているか。
3、大学などの協力が必要な部分の内容（役割分担する部分など）が具体的に表現されているか。

◎審査員

学長、理事、副学長、事務局長、学生生活活性化専門委員会委員、各学部等学生委員会委員

大学環境の改善につながる学生たちのさまざまな夢

これまで、受賞した企画をいくつか紹介します。

初年度（平成11年）に夢大賞を受賞した『大学にビオトープを』は、環境科学部の学生を中心にしたグループによる企画でした。身近な自然が減っていく中、学内にそれを取り戻し、環境教育の場やビオトープ

留学生のお国自慢

コルコス　モハメド　サヒムさん（21歳）
KOURKOUSS MOHAMED SAHIM
長崎大学工学部　電気電子工学科2年

他人同士でも会話が弾む。とってもオープンな人々。

ヨーロッパが目と鼻の先にあるアフリカ大陸の北西端に位置するモロッコ。「僕は首都ラバトの出身ですが、映画で有名なカサブランカを首都だと思っている日本人が意外に多いんですよね」。緑豊かな美しい街、ラバトは近代的なビルとフランス風の洗練されたレストランやショップなどが軒を連ねる一方で、中世の頃、外敵から守るために迷路のようにつくられた旧市街地（メディナ）も残され、イスラムの国の独特な雰囲気が漂っています。

管理士取得のためのフィールドとして利用したいというもので、受賞した翌年には、学生たちの設計をもとに、教育学部の中庭にビオトープが設けられました。現在も、後輩たちの手によって水質や土壌の管理が受け継がれています。

この他、大学の環境改善につながる企画としては、工学研究科の院生による『屋上に緑を』（平成11年度）、経済学部の学生による『学生参加による長崎大学のISO14001取得を』（平成14年度）などが各々準夢大賞を受賞しています。

夢大賞受賞をきっかけに設けられたビオトープとおもやい広場。

芸術、医療、地域交流、国際協力など、多彩な夢が実現！

平成17年度には、教育学部の学生らが企画した、『芸術鑑賞で心にゆとりを～ランチタイムコンサートの定例化と拡大～』が夢大賞を受賞。クラシック音楽を中心にしたライブコンサートが昼休みの学生プラザで定期的に行われるようになり、たいへん好評です。

平成16年度には、学生の立場から長崎大学を評価する、『ここが変だよ、長崎大学！～長大生による大学評価プロジェクト』が夢大賞を受賞。現在、企画した経済学部の学生と大学との連携で、大学改革が進められています。

また、その他の準夢大賞受賞企画として、医学部医学科の学生による『国際協力を学生の手で』（平成17年度）、医学部保健学科の学生による『性感染症ってしっとっと？～エイズのない世界へ～』（平成16年度）、経済学部の学生による『観光客と市民の交流プロジェクト』（平成15年度）などがあります。

17年度の夢大賞「ランチタイムコンサート」。キャンパスに豊かな時間が流れる。

「夢大賞」で生まれる、いろいろなサークル

受賞をきっかけに、学内には新しいサークルが次々に生まれています。たとえば、『よさこいで長崎に夢を…』の企画で結成された、よさこい部『突風』、長崎の伝統行事にちなんだ『ペーロン部』や『龍踊部』。長崎大学の留学生のつながりを組織化した『長崎大学留学生協会』、学生の情報発信拠点『長崎大学学生情報局』など。

夢大賞の企画申請者で『龍踊部』の前部長、永田理香（大学院生産科学研究科1年）さんは、「夢大賞受賞は、念願だったサークル設立の大きなきっかけとなりました。部員の意気込みにもつながり、とても良かったですね」と言います。このように学生たちの夢や要望が、サークルという形で実現するケースも少なくありません。

夢大賞をきっかけに設立した「龍踊部」。伝統を理解しながら、学生らしいオリジナルの龍踊をめざしている。

時代を反映する学生の夢に秘められた、大学の可能性

学生が大学に求めているものを的確につかみ、大学によりよい変化をもたらす「夢大賞」。受賞した学生たちは、大学の支援を受けながら自主的に活動を展開し、充実したキャンパスライフを送っているようです。

学生たちの多彩な企画・提案は、ときに時代を反映し、大学の新しい可能性を秘めていると言えるでしょう。今後も、新鮮でワクワクさせる夢の企画が期待されます。

大西洋沿岸地域にあるラバトは、緯度が長崎に近く、温暖な気候もよく似ているとか。しかし、国土の南部に下ると、灼熱のサハラ砂漠が広がり、別世界に変わります。「実は僕は、砂漠には興味がなくて行ったことがありません。両親は、すばらしい景色だと言っていましたが…」。そんなサヒムさんが好きな街は、モロッコでも古い街として知られるマラケッシュです。「建物の壁が赤く、とても美しい。日本の観光客も大勢訪れていますよ」。

サヒムさんが特にお国自慢としてあげるのは、オープンで気さくなモロッコ人の人柄です。「偶然、隣合わせた他人同士も、気軽にいろいろな話をします。日本でそういう光景はあまり見られないのが残念ですね」。

日本人の礼儀正しさや、目標に向かって地道にがんばる姿が好きだというサヒムさん。子供の頃から日本のTVゲームに親しみ、「エンジニアになるための勉強をするなら、この国だと思っていました」。将来は、モロッコに進出している日本企業に勤めたいそうです。

サヒムさんのご家族